

退任ご挨拶

今年六月末日、福井教務所長をもつて御宗門の宗務の現場での定年退職を迎えました。併せて、福井・吉崎両別院輪番の職も同時に退くことになりました。

教学の振興と教化の推進を第一としつつ、蓮如上人を敬愛する御同朋の皆さまと共に、得難きご縁をいただき、遇い難き出会いを賜わりながらも、それぞれの職責を十分果たすことができなまま昨日今日と過ぎ行くほどに、電光朝露のゆめまぼろしのような四年の春秋を過ぎしてしまいました。

『吉崎復興』を掲げ、有縁の同朋の信力とご懇念を賜つて、その具体を図る第一歩が踏み出されたことは、ご同慶にたえません。

中でも、御影道中・御忌法要勤修に輪番としてかかわらせていただき思うことは、毎年欠かすことなく三百四十六回にわたり、二十三日間に及ぶ御仏事が数知れぬ有縁の同朋によって勤められてきている歴史的事実に、心から頭の下がる思いで振り返らせていただいております。

あらためて、この御仏事は真に教団挙げて取り組むべき重要な意味があることを痛感しております。蓮如上人五百回御遠忌を勝縁として上人の行実があらためて顕彰されたとき「今日の真宗教団の原点・出発点は吉崎の地にある」ことが、諸先輩方によって確かめられております。この意味を具体し顕現するのが「民衆に開かれた本願寺」を中心として集まった『大谷派宗門』の目的であり、同時に「立教開宗」の意義を闡明するものであります。

どうか皆様の願いがひとつとなって、「広大会」なる僧伽に召される同朋の集いを吉崎の地に具現する取り組みが続けられることを心から念願し、退任のご挨拶とさせていただきます。

尊いご縁を賜り誠に有難うございました。

敬白



二〇一九年六月三十日